

【書く・なぞる】俳句 小林一茶 一

やれ打つな 蠅が手をすり 足をする

これがまあ 終の栖か 雪五尺

雀の子 そこのけそこのけ お馬が通る

泣け涙 蟲の命も あるものを

瘦蛙 負けるな一茶 是にあり